

特集 チャレンジ大阪 6

「大阪市立工業研究所との産官技術交流会」

～ 次世代イノベーションを拓く機能性材料 ～

主催／大阪商工会議所、(地独)大阪市立工業研究所、(一社)生産技術振興協会

後援／近畿経済産業局、大阪市、大阪シティ信用金庫、大阪商工信用金庫、京都銀行、(株)商工組合中央金庫、
(一社)大阪工研協会、(一社)大阪大学工業会、NPO法人エコデザインネットワーク



〈開会あいさつ〉

地方独立行政法人 大阪市立工業研究所
理事長 中許 昌美 氏

本日は「チャレンジ大阪6」に、多数の皆様方にご参加いただき、誠にありがとうございます。この会は大阪商工会議所と生産技術振興協会のご協力を得て、大阪市立工業研究所との3者で開催しているものです。この会が始まって今回が6回目を迎えましたが、毎回いろんなテーマ設定を行ってきました。私たちの大阪市立工業研究所は、名称は何となく古臭いようにも思われますが、取り組んでいる内容は先進的なことであります。今年、来年は、大阪市立研究所にとって意義のある年にあたります。当研究所では、ちょうど100年前の10月に研究業務を開始いたしました。我々は今まさに100年目の研究活動に入っている最中でございます。そして来年には創立100周年の節目を迎えます。大正5年(1916年)に設立された時から、企業から研究所に出向いていただき、研究所内で一緒になって、共同開発を進めていくというスタンスでずっと取り組んでおります。このアプローチは、今も私たちの非常

に得意とするところであります。もちろん企業様のご都合を無視することではなく、企業様のご都合に合わせて研究室、開発室代わりに使っていただくことも大歓迎で、当研究所に来ていただき我々と一緒に仕事をしていただくこともできます。一方で、それぞれに役割を分担しながら、適時会合をもって進めていくスタンスも可能です。大阪市立ではありますが、関西近隣の企業様とも一緒に仕事を進めております。私の経験では、大学の先生のご紹介で北海道の企業様の研究開発をお手伝いしたこともあります。100年前から一貫して目指していることは、「新しいモノづくりをしよう」ということで、チャレンジングな取り組みをしております。研究員がしっかりと研究活動をし、その成果を皆様に使っていただけるようにしようという思いで取り組んでいます。我々としては研究成果を企業様に使っていただいて初めて社会貢献ができると思っています。企業様との仕事は、パートナー関係としての仕事だと強く思っています。本日のテーマでご紹介する3件の話題も、今まさにチャレンジして取り組んでいるものであります。ご一緒させていただくことが適時広がっていくことを期待するとともに、この会が有意義なものとなることを願ひまして、3者代表の一人としてのごあいさつといたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。